

「むすぶ」

平成7年1月17日5時46分、まだ夜が明けない時刻、東京ではゆっくりとした揺れを感じた。テレビでは地震発生の一報が流れ始める。度々地震に襲われる日本列島だが、このときの地震は今までにないような地震だった。淡路島北部、深さ16キロを震源とするマグニチュード7.3の地震が発生した。この地震により、神戸と洲本で震度6を観測したほか、豊岡、彦根、京都で震度5、大阪、姫路、和歌山などで震度4を観測した。神戸市内の各所で出火し、その火災を消すことができず、高速道路が横倒しになっている映像はあまりにも衝撃的だった。6434人の命と多くの人々の日常が奪われた。あれから28年が経過した。

阪神・淡路大震災をきっかけに災害ボランティアが定着した。この災害によるボランティアの延べ人数は167万人で、復興の助けとなった。その後に発生した地震や豪雨災害でも多くのボランティアがみられ、東日本大震災では550万人のボランティアが活躍した。この年は「ボランティア元年」と呼ばれている。

この地震やその後の経験から、いくつか変化が見られた。被災時に火力を得るために便利なカセットコンロは、ガスボンベの規格を統一した。水道水が出しっぱなしになるという事例が多発したため、震災後はレバーを下げると止まる「下げ止め式」が普及した。さらに、地震に備える保険、地震保険の普及率も高まった。阪神・淡路大震災の経験から学んだことは多い。とくに亡くなった方の4分の3は圧死ただけに、家屋の耐震性強化と家具転倒防止がすすんだ。その教訓を取り入れて実践することが、今後の被害・損害を減らすことにつながる。

今朝、震災発生時刻に神戸市中央区の公園では追悼のつどいが行われ、テレビで中継されていた。設置された竹灯籠や紙灯籠、約1万本が「むすぶ」の文字になるよう並べられた。この「むすぶ」の文字には、神戸から全国へ人と人の思いを結ぶ、震災を経験した世代と知らない世代とを結び、教訓を未来へと伝えていく、静かな祈りと決意が込められている。

1月17日 校長 鈴木 幸雄

◆問題 図のように水色の正方形の中に青い正三角形を書きました。xは何度になりますか。

